



平成29年6月9日

産業奨励館（現・原爆ドーム）の壁面破片レンガを製造元に寄贈します**日時：6月13日（火） 13:00~15:00****場所：讃岐煉瓦株式会社琴弾回廊（ことびきかいろう）内事務局**

産業奨励館の壁面レンガの破片を、下記のとおりレンガ製造元の讃岐煉瓦株式会社に寄贈しますのでご案内します。

このたび寄贈する壁面破片レンガは、原爆によって破壊され飛散した産業奨励館の壁面レンガです。広島県物産陳列館竣工100年目となる平成27年4月5日に、広島大学原爆瓦発送之会（会長：嘉陽礼文）が元安川から採取したものです。

採取した壁面破片レンガから、原爆ドームの歴史（広島県物産陳列館から広島県産業奨励館に移行した歴史）を再認識すると同時に、建設当時のレンガの製造方法を学ぶ機会を提供するために、製造元である讃岐煉瓦株式会社へ寄贈します。

当日は、当時レンガ製造に従事されていた方から、昔のレンガ製造についてお話を伺います。また元安川より発見された刻印レンガについて、同社製のものかどうかを目視による確認作業も行います。

記

日時：6月13日（火）13:00~15:00

場所：香川県観音寺市有明町6-6

讃岐煉瓦株式会社 琴弾回廊（ことびきかいろう）内事務局

出席者：嘉陽 礼文（広島大学原爆瓦発送之会会長）

川崎 隆三郎（讃岐煉瓦株式会社社長）

柳生 義博（讃岐煉瓦株式会社総務課課長）

三好 則夫（元讃岐煉瓦株式会社製造部門責任者）

＜讃岐煉瓦株式会社への寄贈に至った経緯＞

讃岐煉瓦株式会社へは、平成25年3月に元安川より採取した刻印レンガの製造元確認のために訪れたことがあり、今回は二度目となります。

一度目の訪問後には、同社代表取締役、川崎隆三郎社長より「平和教育活動に役立てて頂きたい」という目的で、同社資料倉庫に保管されていた明治時代の刻印レンガ2つと、刻印コテ1つが嘉陽へ寄贈され、現在、本学医学資料館1階に常設展示されています。

平成25年1月と2013年9月に、同会と本学の教職員が広島市の許可を得て原爆ドーム内のレンガ刻印調査を実施した際には、「松葉の菱」の刻印を12個発見しました。その刻印の画像を讃岐煉瓦株式会社へ送付したところ、自社製品に間違いのないとの御回答を得た経緯があります。

- ※ 日干し煉瓦の製造過程の特徴から、レンガ本体への刻印はだいたい 100～200 個に 1 個の割合で打刻されており、現在の原爆ドーム内に落下しているすべてのレンガに刻印があるというわけではありません。
- ※ 同会により発見された同社の刻印はすべてレンガの胴面に打刻されており、長手面や小口面への刻印は、現在まで行われた原爆ドーム敷地内と元安川での調査では発見されていません。

【お問い合わせ先】

広島大学国際室国際部 国際交流グループ担当 嘉陽礼文

TEL : 090-1185-1620 FAX : 082-424-4545

発信枚数 : A4版 4枚 (本票含む)

【寄贈予定レンガの 1 つ。27 cm×12 cm×8 cm, 約 4 kg, 洗い出し加工あり刻印は胴面にモルタルが付着しているため確認できず】(2015.4.5 採取)

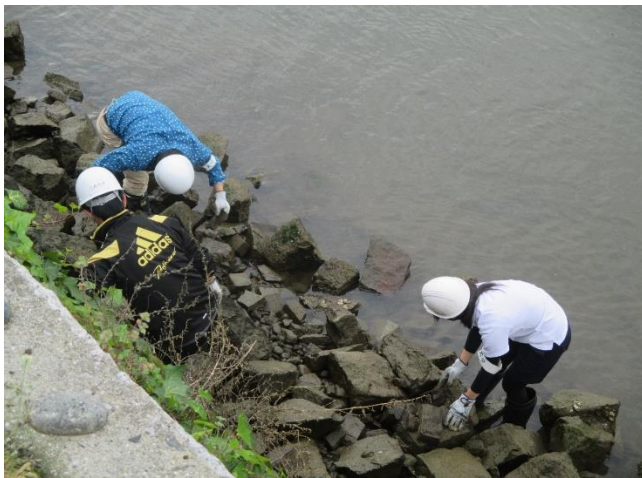




讃岐煉瓦より寄贈された明治時代製のレンガ
(中央に刻印)



讃岐煉瓦より寄贈された刻印コテ



広島県物産陳列館 100 年祈念採取企画 (2015. 4. 5)



元安川より採取された刻印レンガ
(2015. 4. 5)



ドーム内レンガ (2013. 9. 24)



ドーム内レンガ (2013. 1. 23)



ドーム内レンガ (2013. 9. 24)

ドーム内レンガ (2013. 9. 24) ドーム内レンガ (2013. 1. 23)

【FAX返信用紙】

FAX：082-424-6040

広島大学財務・総務室広報部 広報グループ 行

産業奨励館（現・原爆ドーム）の壁面破片レンガを製造元に寄贈します

日時：6月13日（火）13:00～15:00

場所：香川県観音寺市有明町6-6

讃岐煉瓦株式会社 琴弾回廊（ことびきかいろう）内事務局

ご出席

ご欠席

貴社名 _____

部署名 _____

ご芳名 _____（計名）

電話番号 _____

誠に恐れ入りますが、上記にご記入頂き、6月12日（月）10:00まで
にご連絡願います。

